

第 11 回

技術教育賞

本賞は、学校および社会教育における、
自動車技術に関する人材育成・教育の向上発展を
奨励することを目的として2009年に設置されました。
今回は1件に授与いたします。

賞の概要

対象となる者

- 自動車に関する研究開発、技術創造、ものづくりなどにおいて、学生・生徒ならびに若手技術者を指導、育成し、優れた活動・成果をあげた個人若しくはグループ
- 技術者育成・人材育成プログラムの創設や教材開発および普及に貢献し、その功績が顕著な個人若しくはグループ

対象となる活動

- 自動車に関する学生創造活動に対する指導・支援
- 本会、各種団体、企業における自動車技術者育成事業の運営・推進
- 自動車に関する教育出版物の執筆、制作
- 学会誌等への技術者教育関連記事の執筆
- 新しい教育システム、教育プログラムの創設や技術者育成教育の啓発活動
- その他自動車に関する人材育成・教育の向上発展に貢献していると認められる活動

技術教育賞

モーターサイクル工学基礎講座の立案・企画・開催 ならびに教育効果の高い教材開発

モーターサイクル工学基礎講座実施委員会ならびに二輪車の運動特性部門委員会

受賞理由

受賞者は、若手二輪技術者を対象とし、2017年9月に第1回「モーターサイクル工学基礎講座」を開講、これまでに計3回、毎年9月に開催し、延べ2,700名以上が参加する人気の講座となっている。講座は3日間で10科目を実施し、講師の多くは現役のメーカ技術者が担当し、参加者にとって専門知識を理解したり、先輩技術者の仕事への取り組み方を学んだりする場となっている。講座の特徴として、講義を補完する役割として展示コーナーを設け、車両の展示だけでなくエンジン / 変速機・サスペンション・タイヤのカットモデルも展示した。また、講座「運動性能」の理解促進として体験試乗会も実施し、二輪車(自転車)の諸元の違いが操縦安定性に与える影響を体感することでより深い学びに結び付けている。初日の講座終了後に実施した交流会は、講師と参加者が講座内容を話し合ったり、他社の若手技術者と交流したりすることで、会社の枠を超えた人材育成の場ともなっている。

また、2020年2月には、平日の夜間、一般を対象とした「みんなのモーターサイクル工学講座」を開催、これまでにない参加者層を開拓するなど積極的な活動を行っている。

さらに、4月から2年間の予定で、モーターサイクル工学基礎講座の内容をより分かりやすく解説した連載記事を会誌「自動車技術」に掲載、教育図書としての出版も念頭に置いている。

これらの活動は、二輪車特有の自動車技術の教育、工学の裾野拡大として有効かつ継続性の高いプログラムであり、その功績が顕著と認めるものである。